

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18039	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	医療安全管理学（臨床工学・危機管理学・感染制御学） (Healthcare Safety Management)				
担当教員名	○佐々木美奈子／菅原えりさ／吉田理香／本谷園子 橋本廸生／田中健次／遠田光子				
授業の概要及び到達目標					
<p>工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、感染症（MRSA、HIV、結核等）に対する認識の変容も迫られている。本講義では、社会人として求められる知識に加え、医療関係者として医療安全の基本概念を理解し、社会の医療安全ニーズに応えるべき知識を習得し、その実践を考える。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療サービスにおける安全とその管理について説明できる。 ・ 信頼性・安全性工学の概要とその実践への応用方法について説明できる。 ・ 感染症とそのリスクマネジメントについて説明できる。 ・ 事故分析手法について説明できる。 ・ 事象事例の発生原因、予防策について、様々な視点から考え意見を述べることができる 					
準備学習等					
<p>第1～3回：厚生労働省のホームページで医療安全対策の経緯について学んでおくこと (各4時間)</p> <p>* 主な医療安全関連の経緯 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/i-anzen/keii/index.html</p> <p>第4回：第1～3回の資料を見直し、疑問点をまとめておくこと（4時間）</p> <p>第5回：体の仕組みと働きの「免疫系」、感染症を理解する上で微生物学、滅菌・消毒、抗生物質をはじめとするヒトの免疫系に影響をもたらす薬理学の内容を復習しておくこと（4時間）</p> <p>第6回：第5回の内容を復習し、疑問点をまとめておくこと（4時間）</p> <p>第7回：今までの授業の復習を行っておくこと（4時間）</p> <p>第8回：第7回で提示した事例について調べてくること（4時間）</p> <p>第9回：前回の授業を復習してくること（4時間）</p> <p>第10回～11回：第9回の授業を復習し、事例について考えてくること（4時間）</p> <p>第12回～15回：事例について検討し、まとめてくること（各4時間）</p>					

成績評価の方法	筆記試験（75%）およびレポート（25%）で総合的に評価する。
テキスト	指定しない。
参考図書	授業にて提示する。
備考	<p>開講日が不定期的のため、注意してください。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p> <p>第12回からの事故事例検討では、検討経過に対してフィードバックを行いますので、それを活かして最終発表案を作成してください</p> <p>講義内容に関する質問がある場合、第2・3・4・8・9・10・14回は授業終了後に受け付けます。それ以外の回は看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。</p>
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科目目的・目標・進め方、安全管理を考える（佐々木・本谷） 2. 医療サービスの特性（橋本） 3. 医療の質と安全、医療安全の原理（1）（橋本） 4. 医療安全の原理（2）、組織的取り組み（橋本） 5. 感染とリスクマネジメント（1）（吉田） 6. 感染とリスクマネジメント2：感染予防対策の事例（吉田） 7. 事故事例検討（1）（菅原・吉田・佐々木・本谷） 8. 信頼性・安全性工学から医療をみる（田中） 9. 看護現場の医療安全：チーム医療の視点で（遠田） 10. 医療安全管理の実際：事例から学ぶ（1）（遠田） 11. 医療安全管理の実際：事例から学ぶ（2）（遠田） 12. 事故事例検討（2）（菅原・吉田・佐々木・本谷） 13. 事故事例検討（3）（菅原・吉田・佐々木・本谷） 14. 事故事例検討（4）（菅原・吉田・佐々木・本谷） 15. 事故事例検討発表（菅原・吉田・佐々木・本谷） <p>*講義の順序は、講師の都合により変更となる</p>	